

関西学院大学 研究成果報告

2026年 5月 29日

関西学院 院長殿

所属：社会学部
職名：教授
氏名：佐藤 哲彦

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 関西学院留学 長期（滞在国内：イタリア） ☐ 関西学院留学 短期（滞在国内：） ☐ 宣教師研究期間 ☐ 関西学院外留学（滞在国内：）
研究課題	イタリアならびに南欧州地域の精神福祉政策と薬物政策に関する社会学的研究
研究実施場所	カ・フォスカリ・ヴェネツィア大学（イタリア）
研究期間	2025年4月1日 ～ 2026年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

「イタリアならびに南欧州地域の精神福祉政策と薬物政策に関する社会学的研究」とした今回の留学による研究は、端的には欧州南部地域における薬物政策とハーム・リダクションに関連する精神医療的思考と支援実践についての調査研究として計画した。

報告書の最初に本課題の研究文脈について説明しておく。ハーム・リダクションとはオランダの薬物使用者（当事者）によるセルフヘルプとして開始され、それがイギリスでの実験などを経て名称も含めて整えられて欧州に広まり、その後は世界中で実践されている薬物をめぐる社会的施策である。その中心的な考え方は、HIV/エイズなど感染症の予防を考慮して、薬物を健康に無理なく安全に使用できる施策として発達した。これはすでに、従来は逸脱とされていた諸活動に適用され、脱逸脱をめぐる当事者活動を支える思考や実践として、セックスワークやギャンブルなどの領域でも見られるものとなっている。さらにハーム・リダクションは、2016年の世界の薬物問題に関する国連総会特別セッション前後から当初の薬物施策プログラムの域を超え、ヒューマン・ライツをめぐる運動としても広がっている。これはハーム・リダクションが当初の薬物施策という枠組みを超え、現代社会における当事者中心の社会構想とその運動を意味するものとして展開していることを示している。日本では医師などの誤った紹介により医療的施策として誤解されているが、国際的にはこの社会的施策や社会運動がすでに現代社会の一面として発展している文脈を理解する必要がある。

そこで本課題だが、欧州では各国がそれぞれの薬物政策にこの施策を取り入れているもの

の、欧州北部地域から展開された施策であるため、欧州南部地域の政策については薬物政策研究者のあいだでもポルトガルの政策を除いてはあまり知られていない。南部地域における薬物をめぐる状況は、おなじ欧州であるのにもかかわらず、統計的にみても北部地域とは異なっている。そこで、その歴史と現状について当事者（薬物使用者団体、ハーム・リダクション実践NGOなど）へ調査をおこない、同時にそれに関連する思想や制度について調査した。とくに「薬物政策に関連する思想や制度」として、イタリアではフランコ・バザーリア医師の活躍により精神医療政策の改革が進み、精神病院廃止がおこなわれたこと、それに関連する精神保健思想も関係している可能性があった。それが患者の関与による改革であれば思想的系譜を議論可能だからである。そこでバザーリアの活躍したトリエステやゴリティアなどで当事者である患者（当事者や当事者団体）の関与などについて調査した。

以下、研究結果について概略的に述べる。第一に、バザーリア法による精神病院の廃止、病院外来とコミュニティで精神病患者を遇する原則などの政策は、バザーリアと彼の後継者・支援者によって進められ、現在すでにイタリア全土でおこなわれている。ただし調査の結果、WHOの施設を含むトリエステの後継的な実践においても、それはいわば医療の提供側である医療関係者を中心とした改革であった。患者（当事者）の関与は少なく、そもそも患者が当事者団体を組織したのはようやく近年になってからである。バザーリア法とそれによる改革は人道的な医療改革ではあっても、当事者中心の活動という現代的な社会構想と社会運動というわけではない。これはいわゆる人道的改革をめぐる連続性と断絶を考える上で示唆に富む調査結果である。

次に、イタリアのハーム・リダクションについてである。イタリアではすでにハーム・リダクションを意味するLa Riduzione del Danno (RdD)という言葉もしばしば使われており、薬物使用者団体であるITANPUD (Italian People who Use Drugs) も組織されている。イタリアでのハーム・リダクションは1995年にトリノで始められた。オランダやイギリスで80年代からハーム・リダクションが組織されていたことからすると、少々遅れている。しかしそれを組織した団体とその中心メンバーは現在でも現役で政策研究や実践にかかわっており、そのためもあって、ハーム・リダクション実践には北部地域とは異なった特徴が見られる。

イタリアにおけるハーム・リダクションの導入はForum Drogheという薬物政策研究活動団体がトリノで組織されたことによる。設立メンバーの一人Sussana Ronconiはノーマン・ジンバーク (Dr Norman Zinbarg) の“Drug, Set and Setting”の翻訳もおこなったことで知られている。この研究は日本では私が1999年にはじめて紹介したものである。

Frum Drogheは1996年にハーム・リダクション活動団体L'Isola di Arranを組織し、この組織がトリノ市内や郊外にドロップインセンターを設立してハーム・リダクション実践を開始した。その他にもドミトリー（宿泊所）や、最近ではトリノ市からの委託で薬物テストも始めた。私は何度もトリノに通い、スタッフの案内でドロップインセンターをはじめL'Isola di Arranのさまざまな活動を観察し関係者へのインタビューをおこない、さらに活動の一部に参加することで、その実践を事細かに調査研究した。調査結果の一部はL'Isola di Arranのジャーナルにエッセイとして執筆した。これは今秋に刊行される予定である。

興味深いことに、当初私の考えた通り、欧州南部地域のハーム・リダクションはそれを運営する支援者にとっても北部地域とは異なった施策と捉えられている。それは支援者自身の言葉を借りれば「地中海モデル」と呼べるものである。今回の留学研究の最大の成果はおそらくこのモデルや他のグローバルサウス地域モデルなどからハーム・リダクション全体を捉え直すことができるようになったこと、そしてそのことによって現代社会における脱逸脱をめぐる社会構想と社会運動についての重要な知見を得られたことである。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間の大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。